

第1回懇話会での主な意見

■ 計画の理念に関する御意見

- ・ 京都は地域性が豊かで、多様性に富んだ文化が大きな魅力であり、多様性を前面に打ち出すべき。また、京都の力の一つに、多様性を受け入れる寛容度があり、そこに成長性があると考える（多様性については複数委員から御意見を頂いております）
- ・ 男性も女性も外国人も全ての人が認め合う社会づくりが重要
- ・ 国が留学生30万人計画を掲げる中、府の従来の計画では、グローバルizmへの対応に関する記載が弱く、留学生や外国人労働者など、いかに多文化共生を進めるかが課題
- ・ 予測不能な社会に入る中、人間力をいかに高めるかの視点が重要
- ・ コミュニティを資産と考える視点を持つことが、地域の活性化や交流の促進など、社会問題の解決に繋がる（コミュニティの重要性や再構築については複数委員から御意見を頂いております）
- ・ ふるさとに誇りを感じられる社会づくりを進めるべき
- ・ 第4次産業革命が先導する知識経済化の影響を十分配慮したビジョンを作るべき
- ・ 社会のイノベーションに繋がる地方自治をリードする取組みを期待したい
- ・ 先進性と伝統そういった京都の強みを活かすことに期待したい
- ・ 人口減少が進む中で、いかに縮まっていくか、縮小するかも考えるべき
- ・ 政府の国土計画では、コンパクト・プラス・ネットワークがキーワードになっており、京都らしいコンパクトさ、ネットワークのあり方を提示できれば
- ・ 将来ビジョンの策定は、未来は現在にありその未来を見極めることから進めるべきで、部会間の連携と調整が必要

■ 施策の方向性に関する御意見

(若者・女性・高齢者等の活躍関係)

- ・ 女性の企業経営では、結婚、出産、育児のステージで手厚いメンター支援があると心強い
- ・ 若者のキャリア教育では、マナー向上の習得が中心だが、生き甲斐などを考えるような教育が必要
- ・ 地域のお祭りなどは高齢者が支えていることが多いが、京都の学生や若者がコミュニティ活動などに参加していける仕組みを考えるべき
- ・ 留学生も含め、京都のファンを増やしていく取組みが必要
- ・ 高齢者が地域コミュニティの中でキーパーソンとなっていけるような仕組みが必要
- ・ ものづくり女子大学のような、研究開発を支援する仕組みづくりが必要
- ・ 人権は部落問題を中心に人間として同じであるということに加え、多様性を尊重しながら同じであるという2つの軸で考えることが重要

(健康・福祉関係)

- ・ 全ての子供達が、生まれ育った環境に左右されず自分の夢を実現できるような社会づくりが重要
- ・ 人生100年時代と言われる中、予防医学の視点で、暮らしているだけで健康になれる京都府を目指すべき
- ・ がん検診向上に向けた取組みが必要
- ・ 高齢者の自立、健康寿命を延ばすことを重視していくべきであり、高齢化社会を支えるには医療的サポートに加え社会的サポートシステムが必要
- ・ 子育て世代をサポートする具体方策が必要であり、仕事と子育ての両立、経済的負担の軽減等で、若い人達の価値観を変えていくような社会的支援が必要

(教育関係)

- ・ 京都の強みである大学の資源をうまく学校と連携させ、探求力のある子供を育成していくことが重要
- ・ 少子化の中で適正な学校規模を確保しないと子供自身が活気を失ってしまうことも考慮しておくべき
- ・ 新たないじめや不登校の形態が出始めており安心して安全な学校環境づくりが必要

(文化・スポーツ関係)

- ・ 伝統文化や伝統産業と観光、インバウンドをうまく連動させる取組みが重要
- ・ 文化は守るだけでなく、AI・IT・バイオテクノロジー等と融合させ、創造することが必要
- ・ 文化で少子化等の社会問題を克服していく視点も必要
- ・ 文化と観光や農業との連動などによる地域活性化にも期待
- ・ ゴールデン・スポーツイヤーズで燃え尽きないよう、京都スタジアム（仮称）を中心に、地域スポーツ力をいかに高めていくかが大きな課題
- ・ 勝利至上主義のスポーツだけでなく、見る人、応援する人、全ての人達を繋げられるものとして考えるべき

(産業関係)

- ・ 商店街は衰退し、空き店舗が増え、人通りがない状況となっており、インバウンド等観光との連携が重要
- ・ 食は京都ブランドの情報発信としても分かりやすく波及効果も高いので、重点的に実施すべき
- ・ 日本一起業しやすいをキーワードに学生と企業がコラボした起業家育成などに注力してはどうか
- ・ けいはんなの強みを活かしたイノベーション拠点形成、グローバルな連携未整備クラスター開発、新たな次世代型のスマートシティへの取組みが必要
- ・ 小型ジェット機の導入等、ものづくりを進めるには交通インフラは必要
- ・ 農業法人の数は増加したものの、集落に人がいない、労働力が足りないという状況の中、いかに集落と経営を守っていくのかが大きな課題
- ・ 景気は循環するので景気が良ければ不況も訪れるため、京都ジョブパークをどうリニューアルするかも含め、収入のある仕事ができるシステムをどう作っていくかというのが大切

(防災関係)

- ・ 今後の豪雨災害・地震災害に向け、極端な気象現象による災害などへの備えが不可欠
- ・ 近年、レジリエンスとの言葉が言われるが、災害被害ゼロは難しく、発生した災害にどう対応するかを考え、元気な地域づくりが災害に強い京都を実現する上で重要